

1 生活科学の一つの目標として、蓄積された疲労・慢性疲労のない状態を誰にでももたらすということが考えられる。その基礎として、単に肉体的な部分のみでない疲労の形を、いろいろな立場の主婦について、把握し、それについての条件づけをしようとしたものである。

2 兵庫労研式フリッカーにあらわれる、いわゆるフリッカー値・ちらつき値を、一応の手がかりとして現在まで、農家、工場労働者、漁家(日本海岸)、俸給生活者についてはかかってきた。今回は、内海の2部落で、7月～8月に各一週間づつ、1日3回測定し、一方生活時間調査、生活に対する意識などを併せてききとりそれを総合して考察した。

3 (第2回目の測定は、8月中旬であるのでわからぬが) 漁業の形態は、3トレ未満の動力船による、一本釣、底曳網が主であるが、天候に左右されて、出漁する日と、できない日で、生活内容がことなり、出漁する日には、食事時間、睡眠時間などという基本的な時間の配分が全くくづれてしまうので、主婦は、そうしたスケジュールと、子供達の通学その他一般的な時間の運営とはさまれて、相当の疲労蓄積のみられる場合がある。

## 22 主婦の疲労について (第6報)

—内海漁家の場合—

姫路短大 末政 清子  
香川 敦子  
安野 礼